

百寿の故郷

匠瑛探訪

— 58 —

手元に『われ生涯一教師 100年の志』と題した本があります。この本は、現在千葉市にお住まいで102歳になる竹下定蔵さんが、教師として、その後も公民館の歴史講座の講師として60年余にわたる卒業生との交流から生まれ、教え子らにより白寿(99歳)記念として出版されたものです。

竹下さんは旧姓を小林といい、1909(明治42)年樺海村生まれ、旧制匠瑛中(現在の匠瑛高)昭和4年第1回卒業生とのことです。

30歳ごろまで生まれ故郷で過ごした記憶をたどりながら、「明治・大正・昭和へ」の章がまとめられています。

大正6年の台風による樺海小校舎や近くの寺の倒壊、同年の大干ばつによる九十九里地方の被害、大利根用水事業、中学時代に「私の一生に」とって、最大の試練であった。」という5月から7か月に及ぶ朝3時に起きての草刈りを終えての通学、学校での軍事訓練、帰宅後の農作業の手伝いの様子などが描かれています。

「この過酷な草刈り作業を通して、江戸時代の農民の生活を十分に理解できた。」と語り、

その後の人生で「種々さまざまな困難に直面したが、この苦勞に比べれば、物の

数でもない。」と述懐しています。「私の本来の母校は県立匠瑛高校であるが、より深く、そして強く母校に近く思えるのは女子高のような気がする。」とまえがきで述べ、「千葉高女との運命的な出会い」と本の中で紹介されているように、30歳から奉職した現在の千葉女子高での戦前・戦中・戦後の教師生活がつづられています。

「私の歴史観」の章では、九十九里浜の終点はどこか、平将門と成田山新勝寺、千葉県と東北の人々、近世農民の生活などが項目にまとめられ、さらに日蓮、道元、伊能忠敬、津田梅子など歴史上の人物についても述べられています。

昭和10年、隣村である平和村の小学校に勤務した時、村内に石井、石毛、岩井姓が多いことを村内の古老をたずね、将門に仕えた一団がこの地方を開拓した、との興味深い言い伝えを聞き出したことも書かれています。

千葉市公民館で33年に及ぶ、「歴史講座の継続は長生きの秘訣である」と語る竹下さん。この本から故郷の歴史の一端を知る事ができました。

問 八日市場図書館 ☎ 73・3746



竹下さんとその著書「われ生涯一教師」